

科目ナンバリング		U-LAS13 10003 LJ60										
授業科目名 <英訳>		基礎物理化学（熱力学） Basic Physical Chemistry (thermodynamics)					担当者所属 職名・氏名		理学研究科 准教授 奥山 弘 理学研究科 准教授 水野 操 理学研究科 准教授 小板谷 貴典			
群	自然科学科目群				分野(分類)	化学(基礎)			使用言語	日本語		
旧群	B群	単位数	2単位		週コマ数	1コマ		授業形態	講義（対面授業科目）			
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	水2			配当学年	主として1回生		対象学生	理系向	
[授業の概要・目的]												
理科系学生を対象とする（理学部1回生のクラス指定科目である）。 熱力学は、アボガドロ定数程度の原子・分子の集合体からなる巨視的物質の「集団としての性質」を記述する。近代的な原子論以前に確立した熱力学は、原子・分子などの実体を考えることなく、温度・圧力・エネルギー・エントロピーといった巨視的な状態量の間の関係を与える。本講義では、気体の性質、相平衡、化学平衡、自然現象の進む方向などを、熱力学がどのように記述するかを理解することを目的とする。ミクロな原子・分子の視点との結び付きや、化学反応への展開も意識した内容とする。												
[到達目標]												
・熱力学の基礎概念を習得する。 ・理想気体、実在気体の状態方程式を理解する。 ・熱力学第一法則と第二法則について説明できるようになる。 ・エンタルピーやエントロピーなどの熱力学関数について説明できるようになる。 ・相平衡や化学平衡に関する基本的事項を理解する。 ・化学反応の進行する方向の熱力学的な記述について理解する。												
[授業計画と内容]												
フィードバックを含め全15回とする。以下は目安であり、詳細は担当教員によって異なる。初回のガイダンスで確認すること。 1. 熱力学の基礎、気体の状態方程式（2～3回） 2. 熱力学第一法則（2～3回） エネルギーと熱・仕事、準静的過程、化学反応とエンタルピー 3. 熱力学第二法則（2～3回） ケルビンの原理、クラウジウスの原理、カルノー機関、エントロピー 4. 自由エネルギー、化学ポテンシャル（2～3回） 5. 相平衡、化学平衡（2～3回）												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点]												
授業中の演習あるいはレポート課題を25%、定期試験を75%として評価する。												
-----基礎物理化学（熱力学）(2)へ続く↓↓↓												

基礎物理化学（熱力学）(2)

[教科書]

使用しない
必要に応じて授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

マッカーリー、サイモン 『物理化学 - 分子論的アプローチ (下)』 （東京化学同人） ISBN: 4807905090

アトキンス 『アトキンス物理化学（上）』 （東京化学同人） ISBN:4807905295

アトキンス 『エントロピーと秩序』 （日経サイエンス社） ISBN:4532520142

[授業外学修（予習・復習）等]

授業計画を参考に、上に挙げた参考書の対応する部分を予習しておくこと。
復習に関しては、レポート問題だけではなく、参考書の章末問題を解くことを薦める。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]

理学部、理学部、理学部